

## 「ながれ」投稿の手引き (2016年5月改訂)

1. 本手引きは「ながれ」に年1回(本誌各巻1号)掲載する。本手引きを参照する前に、「ながれ」投稿規程を一読のこと。
2. 「ながれ」は各偶数月の25日に発行される。各号の原稿は発効日の2ヶ月前の10日までに印刷所に入稿しなければならない。ただし、ごく短いお知らせなどの記事は、発効日の2ヶ月前の月末まで受け付ける。
3. 投稿料は、会員は無料、非会員は3万円である。
4. 原著論文、解説・総説の著者は原則として別刷50部の代金を支払わなければならない(投稿規程10項)。
5. カラー印刷を希望する頁がある場合、カラー印刷頁数に応じて以下の印刷費(価格は税・手数料抜き)を支払う。

1頁	26,000円
2~4頁	36,000円
5~8頁	41,000円
9~12頁	61,000円
13~16頁	66,000円
6. 別刷代は以下のように定める。
  - a) 別刷は50部を単位として購入できる。
  - b) カラー・モノクロ、印刷頁数を問わず、別刷代は50部あたり6,000円(税・送料抜き)とする。
  - c) 論文表題・著者氏名を印刷した表紙を希望する場合には、50部につき3,000円が上記代金に加算される。
  - d) 研究ノート、連載等については原著論文、解説・総説に準ずる。
7. 各欄の内容と頁数は以下のとおり。( )内の数字は印刷頁数の目安を示す(印刷1頁は約2,400字に相当)。
  - a) **原著論文**: 流体力学及びその関連分野における基礎的あるいは応用的な問題に関する研究のオリジナルな成果であって、ひろく公表されている刊行物などに未投稿、未発表のものに限る。ただし、内部報告書などに掲載されたものは未発表として扱うが、関係機関の承認を得た上で別刷を添付すること。査読は獨創性、信頼性、流体力学としての有用性にもとづいて行う(10)。
  - b) **解説・総説**: 科学史なども含む流体力学及びその関連分野の特定の課題について、詳細に入らず、他分野の会員の参考となるように記述する(8)。解説は著者の研究を中心とした記述、総説は他の研究者の研究も含めた記述を行う。査読あり。
  - c) **特集・小特集**: 解説・総説に準ずるが、一つの課題に関連するいくつかの話題に関する解説を集めたもの。特定の課題に関するシンポジウムの講演を纏めたものでも良い(20-50)。
  - d) **研究ノート**: 研究報告とその背景の解説。研究報告の部分が全体の半分程度。査読あり(2-4)。
  - e) **ながれマルチメディア**: 日本流体力学会のホームページのみで公開する原著論文、解説・総説等。アブストラクトを「ながれ」に掲載(2)。
  - f) **巻頭写真**: 流体力学の立場から興味深い写真で、オリジナルのものが望ましい。写真(1)に説明文(1)をつけること。表題、所属、著者名、所属機関所在地が必要。
  - g) **連載**: 流体力学ノート、流体力学講座、流体力学用語解説など。流体力学ノートは、流体力学に関する知識の自由なスタイルによる紹介を連載する。流体力学講座は、流体力学の特定の分野に関する入門講座を連載する(各号あたり3-6)。用語解説は流体力学及び関連分野における比較的新しい抽象概念などを、重要な参考文献をあげながら専門家が解説する(3-6)。
  - h) **学術会議報告**: それぞれの内容を簡潔に纏める(1-3)。
  - i) **談話室**: 意見、提案、パラドックス、質問、パズル、短い手紙の紹介、希望する記事、よもやま話。1件につき1頁程度。
  - j) **会員の声**: 本学会に対する意見・要望・批判など(1)。
  - k) **新刊紹介**: 主観を交えた紹介が望ましい(1)。
  - l) **お知らせ**: 求人、求職、講演会、シンポジウム、研究会、夏の学校などの案内など(1-5)。なお、上記 a)~d)までの原稿については原則としてデータ入稿にて受け付ける。原稿を執筆する際には、「ながれ」投稿規程および「ながれ」データ入稿用執筆要項に従うこと。その他の欄への投稿は「ながれ」投稿規程に従うこと。